

茶産地土壌の特性

農業研究センター 茶業研究所

研究のねらい

県内茶産地主要土壌を粋試験で生産力を比較し、土壌の特性を明らかにした。

研究の成果

1. 土壌の生産力、主な特性は次の通りである。

- (1) 安山岩系土壌(細粒質、水俣市)
生育・収量とも良好で、土壌の生産力は高い。土壌はち密で粘着性が強い。保水性が大きく、降雨時には過湿となりやすい。有機物の施用と暗きよの設置が必要である。
- (2) 古生層系土壌(砂岩、泉村)
生育・収量とも中庸である。土壌は粗粒質で透水性は良好である。保水性はやや小さく、干害を受けやすい。有機物の施用が必要である。
- (3) 火山灰系土壌(黒ボク土、旧茶試)
生育収量ともやや劣る。土壌は中粒質で保水性が極めておおきく、降雨時期には過湿となりやすい。明きよ、暗きよの設置が必要である。
- (4) 変成岩系土壌(結晶片岩、鹿北町)
生育・収量とも良好で、土壌の生産力は高い。土壌は中粒質で透水性は良い。保肥力が弱いので酸性になりやすい。有機物の施用が必要である。

普及上の留意点

茶園土壌改良の基礎資料とする。

(単位: kg/20m²)

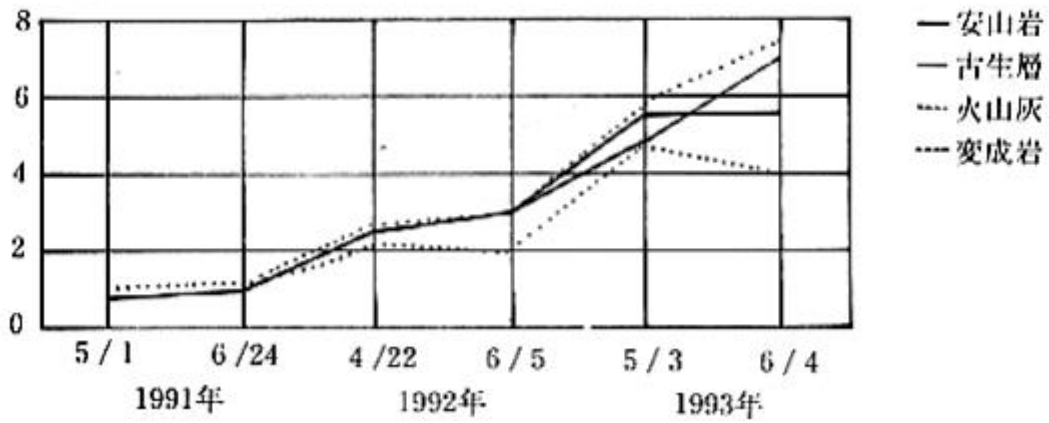


図1 生葉収量

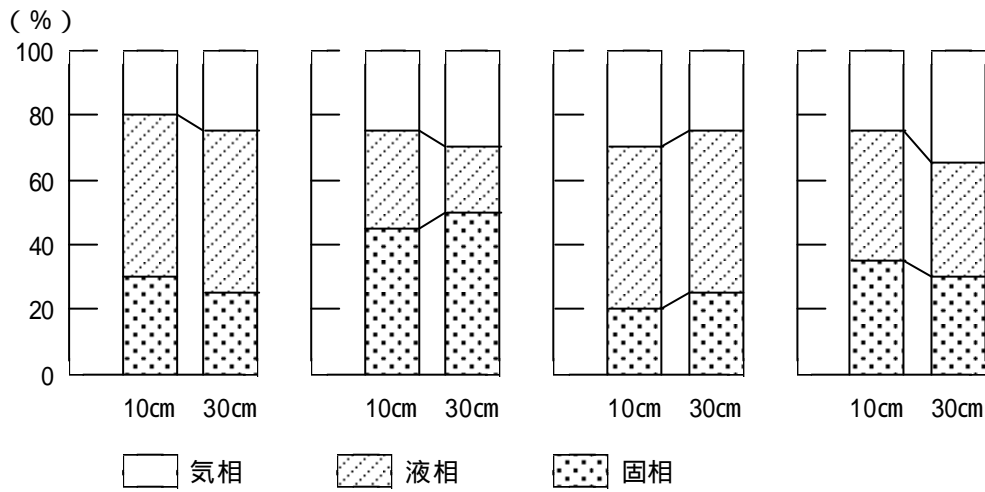


図2 土壌の三層分布

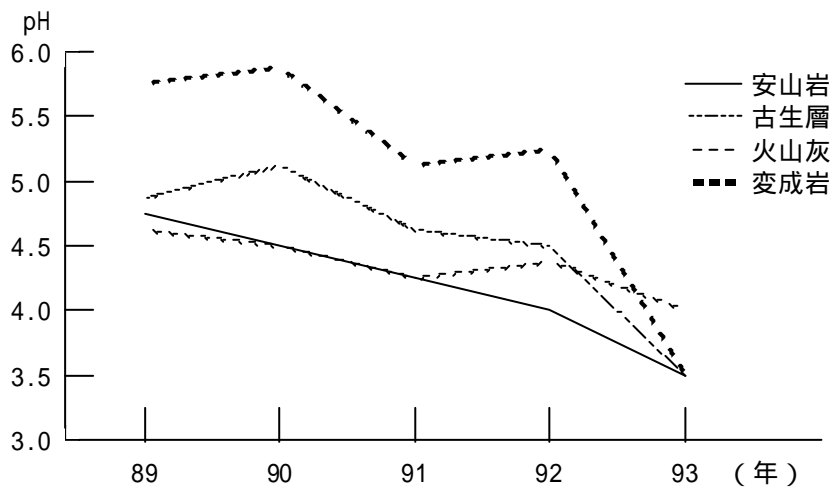


図3 土壌 pH の変化